

養父市立八鹿小学校

令和4年度学校評価

(学校自己評価・学校関係者評価)

1 本年度の学校教育目標		ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成
2 本年度の学校重点目標		
めざす学校像	【活力・安心・連携】・子どもの夢と志の実現を支える学校 ・一人一人が大切にされ、安全・安心な学校 ・明るい子どもの声が響く活力のある学校 ・保護者や地域とともに歩み、開かれ信頼される「地域とともにある学校」	
めざす児童像	【 知・徳・体 】 ・自ら学び、考え、行動する子 ・夢や志を持ち、粘り強く挑戦する子 ・心身ともに健康で、自分やまわりの人、社会、自然を尊重し大切にする子	
めざす教職員像	【愛情・協働・挑戦】・使命感、教育愛に満ち、児童の良さや可能性を伸ばす教職員 ・人権感覚に優れ、子どもとともに学ぶ教職員 ・自らの資質能力と実践的指導力の向上を図り、児童・保護者・地域から信頼され、地域を愛する教職員	
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティ・スクールとして、地域と一体となって子どもたちを育む体制を構築し、「地域とともにある学校づくり」を推進する ■ 東井先生と草庵先生の教えを活かして「心豊かに自立・挑戦」する子どもを育成する ■ 知・徳・体のバランスがとれ「確かな学力」を備えた子どもを育成する ■ 「よろこび」につながる教育活動を創造し、自尊感情、自己肯定感の醸成を図る 	

4 総合的な学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も「よろこびが生まれる学校づくり」を合い言葉に、コロナ禍でも工夫をしながらいろんな教育活動を展開することができた。 ・授業参観やオープンスクール、学校行事等、保護者の方に多数足を運んでいただき、児童の学習の様子やがんばりを直接伝えることができた。 ・友だちのがんばりを素直に認めたり、応援したりできる児童が多い。今後もお互いを大切にし、認め合える関係性を育てていきたい。 ・本年度は感染症による全校出席停止や学年での出席停止があったり、自宅待機になる児童が多かったりした。それに対して補習を行ったり、授業を増やしたりしながら授業時数の確保を行った。 ・安心・安全な学校づくりでは保護者からご意見をいただくこともあり、今後も研修に励み、児童への関わり方や指導方法の改善をしていかなくてはならない。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)		学校の取組状況○・改善の方策●	
分野	評価項目・取組内容	達成状況	
(1) 学校運営	<p>“よろこび”が生まれる学校づくり ～すべての子どもたちの笑顔のために、 誰一人取り残さない教育の創造～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 一人一人が大切にされ、安全・安心な学校 ■ 明るい子どもの声が響く活力のある学校 ■ 保護者や地域とともに歩み、開かれ信頼される「地域とともにある学校」 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童は全体的に落ち着いて生活している。今年度のスローガンである「よろこびが生まれる学校づくり」を全教職員が意識し、明るく活気のある八鹿小学校となるよう全員で取り組んでいる。 ○コロナ3年目になり、学校や地域の感染状況を考慮しつつ、今できる工夫をしながら学校行事を行い、児童にも達成感を持たせることができた。 ○友達のがんばりを素直に応援したり、困っている友達を手伝ったりする姿がみられ、お互いに認め合い支え合う雰囲気が出てきている。 ●保護者アンケートでは、コロナ禍においても、内容の変更や感染防止対策をして学校行事を開催できたことを喜びつつ、更なる制限の緩和を望む声が多かった。 ●保護者の声・地域の声を集めつつ八鹿小学校ならではの教育活動を継続・発展できるよう、創意工夫を続ける必要がある。
(2) 生きる力を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 【「確かな学力」の育成】 ○「語り」と「対話」による深い学びの創造 ○学習タイムの系統的取組 ○自主学習の取組の推進 ○読書活動の充実 ○ICTの効果的活用 【「豊かな心」の育成】 ○「東井先生の言葉12ヶ月」の活用 ○安心して学び、高め合える学級経営の推進 ○粘り強く諦めない心の育成 ○他者との関わりを意識させる取組 ○道徳の推進 ○やぶ・ふるさとキャリア教育の推進 【「健やかな体」の育成】 ○運動が好きな子の育成 ○体幹を鍛える取組 ○心と体の健康の発信 ○食育の推進と継続 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修では、国語科の説明文を中心に系統立てた指導のあり方について研修を深め、児童の主体的・対話的で深い学びにつながるよう研鑽を積んだ。 ○学びのツールとしてタブレットを活用するだけでなく、コミュニケーションツールとして活用する機会も増え、児童の学習道具として浸透してきた。 ○予習や自主学習の取組は、「J1セレクション」の掲示、表彰等、取組を工夫・改善することで成果が見られた。 ○全校朝会の校長講話で「東井先生の言葉12ヶ月」に触れ、児童会が生活目標を決め、各クラスで具現化するというサイクルができ、生活目標を意識して過ごす児童が増えた。 ○低学年を中心に体幹トレーニングを取り入れたり、体育でリズムジャンプやサーキットを取り入れたりすることで、体幹や基礎体力が付き、多様な動きに慣れ親しむようになってきた。 ○体育委員会が企画した大縄大会は、体力作りの点でも学級経営の点でも大変有効だった。 ○学校運営協議会委員の方々の理解と協力を得られたおかげで、校外学習やクラブ活動、ゲストティーチャー、学習補助、下校の引率等、着実に取組を進めることができた。 ●休み時間等に、タブレットを積極的に活用してタイピング練習などに励む児童が多い反面、運動場で遊ぶ児童が減ってしまった。学級遊び等を計画的に設定して改善を図っていく。 ●保護者の声から、家庭学習や読書に積極的に取り組めていない様子がわかった。家庭学習のさせ方については、定期的に戻す場をつくる必要がある。また、読書については計画的に児童に啓発し、読書活動について考える必要がある。
(3) 子どもの学びを支える取組	<ul style="list-style-type: none"> 【生活指導の充実】 ○いじめ・問題行動の早期発見・早期解決に向けた取組 ○不登校解消に向けた取組 ○規範意識の醸成 ○児童理解と共通理解 【組織的・機動的な支援体制】 ○組織的な指導体制の確立 ○多面的な児童理解と支援体制 ○特別支援教育の充実 【危機管理体制の確立】 ○「新しい生活スタイル」の更新と実践 ○安全な生活環境 ○防災教育 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間の情報交換ツールを活用し、気になる児童の様子や全体に周知する連絡等を共有し、短時間で全職員共通理解を図ることができた。 ○学期に1回の生活アンケートにより、児童の実態把握とアンケートを踏まえた面談、指導を随時行うことができた。 ○毎月の児童理解委員会や子どもを語る会、適宜行うケース会議や関係機関との会議等で、支援を要する児童の対応について共通理解を図る場が確保され、指導に生かすことができた。また、課題解決に向けて連携した指導を行うことができた。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、困り感のある児童、保護者の対応について助言をいただき、指導に生かすことができた。 ○日々児童観察に努め、声をかけたり指導をしたりしながら、いじめの積極的認知や早期発見・早期解決を心がけた。また、いじめ対応チームで組織的に指導にあたることで、しっかりと児童と向き合うことができた。 ○コロナ対策として「八鹿小学校 新しい生活スタイル」を定期的に改訂しながら感染予防と学力・生活力向上に努めることができた。 ○工夫を凝らした避難訓練、栄養教諭による防災食の授業など、新しい取組ができている。 ●学校・保護者・児童が一緒になって不登校を解消しようと努力をしたことで、登校を再開した児童がいる反面、児童の気持ちに十分寄り添えなかった結果、不登校傾向が長引いている児童もいる。 ●感染症対策を取りつつ教育活動を進めてきたが、全校生や学年の登校停止に陥ることになった。一学期は予定を変更して授業時数を増やし停止期間中の時数の確保に努めた。 ●各学年の教育活動の事前準備を早く行うことで、コミュニティ・スクールの協力を得る機会を増やすことができると考える。
(4) 家庭・地域・校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> 【発信】学校の発信力の強化 【家庭】「そうあんくんの日」「ねるねるウィーク」の取組 【地域】コミュニティ・スクールの連携 【校種】小中一貫教育・園小連携の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○体験学習・クラブ活動、赤米の稲刈り、しめ縄作り、ミシンボランティアなど、地域の自然や文化、人材を活かした教育活動を広げるとともに、充実させることができた。 ○コロナ対応で内容を工夫しながら、5歳児と5年生による「5・5交流」や新1年生体験入学、中学校登校等を実施し、小学校、中学校に向かう心構えを養う機会になった。 ○学校だよりや、ホームページ、八鹿っ子ブログ、学級通信、電話、連絡メール、家庭訪問、面談を通して、地域と学校、保護者と学校をつなぐよう心がけた。学校の意図を伝えることを大切にしたい。 ○家庭とともに取り組むことができる「そうあんくんの日」「ねるねるウィーク」は、保護者もとても協力的で、お手伝いに進んで取り組んだり、就寝時刻が守れたりする児童が増えている。 ●家庭によっては、学習・生活習慣の確立に課題がある。「そうあんくんの日」や「ねるねるウィーク」の意図が伝わらず協力を得にくい家庭がある。児童への指導だけでなく、保護者にも丁寧に主旨を伝え、継続した協力が得られるよう働きかける必要がある。
(5) 教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 【教職員の資質向上】 ○教職員が互いに個性や能力を発揮できる職場環境づくり ○OJTによる若手教職員の資質向上 ○風通しの良い職場環境 【ワーク・ライフ・バランス】 ○勤務時間の適正化を図る取組 ○業務改善の推進 ○年休取得の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の心模様や児童から発信されるサインなど、児童理解の大切さを職員間で確認しながら指導にあたった。 ○組織で生活指導案件に対応することで、体罰を抑制するとともに生活指導の方法を学ぶ機会にもなっている。 ○職員が体調を崩し年休等を取得する際には、全職員で補う体制づくりができるため、年休取得がしやすい環境になっている。 ○学期始まり・学期終わりは業務が増える時期になるため、午前中で児童を帰し成績処理や学級事務を行う時間を確保したことで、その時期の残業は減った。 ●業務改善は少しずつ進んでいるが、勤務時間が長く、退勤時刻が遅い教職員がいる。熱心さから時間過多になることもあるが、業務の精選と勤務スタイルの改善が課題である。

5 評価項目ごとの学校関係者評価
学校自己評価の適切さ
<p>分野(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍ではあったが、工夫をしながら教育活動が進められている。3年ぶりに行う行事も多く、保護者にもがんばりを見てもらえる機会が増えておりA評価は妥当である。 ・多くの児童が集う学校であるからこそ、これからもいろんな個性を大切にし、お互いのがんばりを認め合う雰囲気をお願いしたい。 ・保護者アンケートにある声は保護者の困り感や学校への期待だと思う。真摯に受け止め改善できるよう努力してほしい。 ・学校運営協議会委員にも学校の様子がわかるよう、学校だよりの配布が必要だった。また、運営委員は行事への参加ができなかったのて来年度はできるようにしてほしい。 <p>分野(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○以前から継続されている様々な取組により、児童は力をつけているので安心する。また、タブレットを活用した学習も進んでいるので、A評価は妥当である。 ・英語やプログラミングなど新しい教育の取組もしっかり続けられている。地域人材にも得意な方があるだろうから、講師として招いてほしいのではないかな。 ・家庭学習や読書の取組に関して、保護者も困り感をもっているため、家庭でどのように過ごせば良いのか学校からの発信を待っているのではないかな。来年度は学校からの発信方法の改善を期待したい。 <p>分野(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員間で児童の情報交換が盛んに行われていることは大変大切である。また、外部機関との連携もとれており、一人一人に丁寧に対応できている。しかし、教師の指導力不足を感じる事例もあるので、B評価は妥当である。 ・コロナ禍での学校運営は大変だったと思うが、感染予防対策をとりつつ教育活動を進めていけたことがよかった。登校停止もありながら予定通り学習を終えられる見通しがもてて安心した。 ・学校や学級が居心地の良い場所になるよう、子どもに寄り添った個別の対応を、より一層丁寧にしていく必要がある。 ・児童理解に向け研修に励まれることを期待する。 <p>分野(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人材や教育素材を活用する取組が増えている。その反面、「そうあんくんの日」や「ねるねるウィーク」は、学年の発達段階に合わせて取り組むことの大切を保護者と共有する必要があるため、B評価は妥当である。 ・地域人材を取り入れた教育活動が少しずつ増えており、ボランティアとして学校に関わるのが楽しいという感想も聞こえてくる。更なる活用を期待したい。 ・親子の集いを兼ねて赤米の田植えや稲刈りができると、保護者にとってもいい体験になるのではないかな。 ・クラブ活動の講師を地域の方をお願いするのは良い取組である。地域人材を探してみてもどうか。 ・学校関係者と家庭の評価の差が大きい項目である。学校での取組が家庭に通じていないことが現れている。 <p>分野(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の働き過ぎはよくない。心の健康を保ち、笑顔で子どもたちの前に立てよう願いたい。ライフ・ワーク・バランスという観点で考えると、B評価は妥当である。 ・教師の心にゆとりがないのではないかな、メンター制度やカウンセラーを活用して心の健康を大切にしてほしい。 ・適切に褒めたり叱ったりするのは難しい。児童一人一人のとらえ方もいろいろであるが、児童や保護者の思いや願いを考えながら指導しなければいけない。 ・児童理解や学級経営について、しっかり研修し、児童の指導に生かしてほしい。